様式第１号（第１０条関係）

# 2023 年度業務実績報告書

提出日　　2024 年　1 月　12 日

１．職名・氏名　　准教授・國崎大恩

２．学位　　学位　修士、専門分野　人間科学、授与機関　大阪大学、授与年　2005 年

３．教育活動

| (1)講義・演習・実験・実習 |
|---|
| ①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等<br>・教育原理（2 単位）1 年次<br>・教師論（2 単位）1 年次<br>・教育社会学（2 単位）1 年次<br>・教育史（2 単位）1 年次<br>・導入ゼミ（2 単位）1 年次<br>・教育実習（3 単位）4 年次<br>・教職実践演習（2 単位）4 年次<br>・日本の文化と社会（2 単位）1～4 年次 |
| ②内容・ねらい<br>教職課程の科目においては、文部科学省より指定されているコアカリキュラムをふまえた授業内容とし、学校教員として最低限必要となる知識・技能の習得をねらいとして授業を実施した。<br>導入ゼミについては、学校教育の慣例を批判的に考察することを主な授業内容とし、ディスカッションやレポート作成等の大学生活にとって必要となる知識・技能の習得をねらいとして授業を実施した。<br>日本の文化と社会においては、「もののけ姫」の読解を通して日本の文化と社会について考察することを主な授業内容とし、教育学的観点から日本の成長観の変遷について概説するとともに全体のとりまとめ教員としてオムニバス授業全体のコーディネートをおこなった。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫<br>教育社会学と教育史の授業において、未来協働プラットフォームふくい推進事業を利用し、フィールドワークを中心に小浜の歴史と文化を学ぶ学習ツールの開発を小浜市と協働しておこなった。<br>また、導入ゼミでは福井県立こども歴史文化館でフィールドワークをおこない、子どものための教育的工夫について学んだ。<br>【ゲストスピーカー　2 人】<br>【フィールドワーク等　3 件（8 回）】 |
| (2)その他の教育活動 |
| 内容<br>・教員採用試験の受験希望者に対する筆記試験・面接試験の対策 |

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

なし

【0 本】

②学術論文（査読あり）

＊1.「メディアの「厚み」を取り戻す：GIGA スクールの時代の教育可能性を教育思想史研究から問う」、共著者無、近代教育フォーラム（32）、2023 年 9 月。

2．” A Two-Step Approach for Syllabus Development and Evaluation using Machine Learning such as Doc2Vec based on Eduinformatics”, Akira Itoh, Hibiki Ito, Sayaka Matsumoto, Ikuhiro Noda, Kenya Bannaka, Keita Nishiyama, Takafumi Kirimura, Taion Kunisaki, Kenichiro Mitsunari, Katsuhiko Murakami, Ryosuke Kozaki, Aoi Kishida, Mizuki Kondo, Shotaro Imai, Masao Mori, Yasuo Nakata, Masato Omori, Kunihiko Takamatsu, *IIAI Letters on Institutional Research*(3), 2023.8.

【2 本】

③その他論文（査読なし）

1．” Promoting Sustainable Development Goals in Higher Education: Advancing Competency-Based Education and the Implementation of Rubrics in Japan”, Kunihiko Takamatsu, Akira Ito, Hibiki Ito, Keita Nishiyama, Takafumi Kirimura, Taion Kunisaki, Ikuhiro Noda, Kenya Bannnaka, Kenichiro Mitsunari, Katushiko Murakami, Mizuki Kondo, Ryosuke Kozaki, Aoi Kishida, Sayaka Matsumoto, Yasuo Nakata, *Proceeding of 17th Higher Education Reform (HER) Conference 2023*, 2023.6.

【1 本】

④学会発表等

1．” Proposing a new field: Institutional Research (IR) Philosophy based on Eduinformatics — Bridging the Gap Between Practice and Theory in IR”, 15th International Conference on Data Science and Institutional Research (DSIR 2023-Winter), 2023.12, Kunihiko Takamatsu, Kunisaki Taion, Kenya Bannaka, Katsuhiko Murakami, Takafumi Kirimura, Ryosuke Kozaki, Sayaka Matsumoto, Aoi Kishida, Hibiki Ito, Yasuhiro Kozaki, Shotaro Imai, Yasuo Nakata, Masao Mori.

＊2.「データ駆動型教育における教師の専門性と教職の専門職性のゆくえ（ラウンドテーブル教育の中のデータ／データの中の教育）」、日本教育学会第 82 回大会（2023 年 8 月）、共同報告者無。

3．” A Two-Step Approach for Syllabus Development and Evaluation using Machine Learning such as Doc2Vec based on Eduinformatics: Advancements and Challenges in Adopting Rubrics for Grad-ing Criteria in Japanese Higher Education”, 14th International Conference on Data Science and Institutional Research (DSIR 2023) 2023.7, Akira Ito, Hibiki Ito, Sayaka Matsumoto, Ikuhiro Noda, Kenya Bannaka, Keita Nishiyama, Takafumi Kirimura, Taion Kunisaki, Kenichiro Mitsunari, Katsuhiko Murakami, Ryosuke Kozaki, Aoi Kishida, Mizuki Kondo, Shotaro Imai, Masao Mori, Yasuo Nakata, Masato Omori, Kunihiko Takamatsu.

4．”Promoting Sustainable Development Goals in Higher Education: Advancing Competency-Based Education and the Implementation of Rubrics in Japan”, 17th Higher Education Reform (HER) Conference 2023, 2023.6, Kunihiko Takamatsu, Akira Ito, Hibiki Ito, Keita Nishiyama, Takafumi Kirimura, Taion Kunisaki, Ikuhiro Noda, Kenya Bannnaka, Kenichiro Mitsunari, Katushiko Murakami, Mizuki Kondo, Ryosuke Kozaki, Aoi Kishida, Sayaka Matsumoto, Yasuo Nakata.

【4 件】

⑤その他の公表実績

1．「現代の教育論を解体する－教育哲学・教育思想史研究の第一人者が暴き出す教育の〈未来〉」、『図書新聞』3583 号、2023 年 3 月 11 日。

【1 本】

| (2)科研費等の競争的資金獲得実績 |
| --- |
| 【学外】<br>・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)、「教師の発達的変容と教育実践をめぐる関係性の動態的記述」、2021 年 4 月-2025 年 3 月。<br>・未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版ＰＢＬ支援分）「小浜市の魅力向上と小学生のための歴史・文化学習ツールの開発」、2023 年度。<br>【学内】<br>・学術教養センター競争的資金「小学生高学年を対象とした歴史・文化学習ツールの開発」、2023 年 4 月－2024 年 3 月。 |
| (3)特許等取得 |
| なし |
| (4)学会活動等 |
| ・Associate Editor, International Journal of Institutional Research and Management (IJIRM). |

５．地域・社会貢献活動

| ⑥社会人・高校生向けの講座の開講 |
| --- |
| 1.「第 1 回哲学やろっさ」、アオッサ、2023 年 8 月 5 日。<br>2.「第 2 回哲学やろっさ」、アオッサ、2023 年 11 月 23 日。 |

６．大学運営への参画

| (1)補職 |
| --- |
| |
| (2)委員会・チーム活動 |
| ・教職課程部会（2019 年 4 月～現在に至る）<br>・地域連携・広報委員会（2023 年 4 月～現在に至る）<br>・予算委員会（2022 年 4 月～現在に至る）<br>・新学部新設に伴う教職課程認定の申請作業 |
| (3)学内行事への参加 |
| |
| (4)その他、自発的活動など |
| |